

事業名

～広めよう地域教育協議会～

目 標

育てよう地域の宝の子 育てよう故郷を愛する子どもたちに

## 1. 取組の視点

地域の子どもたちが、「自らの街のことを語り、自らの街を誇りに思う」そんな子どもたちを地域と各校園で協力して育てることをスローガンに取り組みをすすめてきました。しかし、一つの中学校区に複数の小学校区をもつ中で、地域の実態や実情に差があり、おのずとそのことによる事業の展開にも差違が生じています。本年度は地域間の交流を深めることを第一の目標に、地域間、地域と各校園がより連携して事業を展開しました。また、動きやすく加えて風通しのよい組織にするために組織の改編にも力を注ぎました。

## 2. 取組の概要

○京中に集まれ！「守ろう命 つなごう絆」

8月4日（土）京西中学校にそれぞれの小学校区の地域の方々、各校園の子どもたちが200名余り集まりました。

・講演「阪神大震災に学ぶ」－大事にしたい三つの命－と題し、未曾有の大震災に見舞われた中での体験を聞かせていただき防災の大切さを学びました。



## ・体験コーナー

ペットボトルによるランタン作り、マイ箸作り、新聞紙でスリッパ作りでは、小さな園児から大人まで協力し、語りながら楽しく作りました。

・簡易担架のミニ講習では、毛布や竹の棒を使って簡単に、しかも実用的な担架の作り方を実演していただきました。参加者みんなが真剣なまなざしで聞き入っていました。



・炊き出しの実演では、炊き出しボランティアによる豚汁が参加者全員に振る舞われました。

○各校園の取り組みへの協力及びコーディネートの充実

## 3. 成果と課題

今回の「京中に集まれ！」の取り組みの成果は、初めて中学校区のすべての地域の方々に呼びかけ参加いただき、異なる小学校区の地域の方々が一同に介したことです。お互いに同じ中学校区にありながら、会うことがなかった方々から「まずはあいさつからだね」という感想をいただき、来年も楽しみにしていますという言葉をいただきました。また、共に取り組んだコーディネーターのチームワークが高まったこと、充実感を得たことも大きな成果です。

さまざまな取り組みがスムーズに効率よく、その上、委員の意思の疎通がしやすいように企画委員会を設置しました。

これまでの取り組みを生かしながら、一層、地域の多くの方々に、この事業を知っていただき、共に協力して地域の宝の子を育てられるように絆を深めながら取り組んでいきます。

## 事業名 グリーン大作戦 ー学校をみどりに ころを豊かにー

目標 豊かなころを育て、共に支え合い、共に生きる学校づくり

### 1. 取組の視点

美しい「みどり」あふれる学校を創るとともに、豊かなころを育て、共に支え合いお互いをたいせつにできる生徒を育てるため、なかまから学ぶことはもちろんのこと、地域の方々とさまざまな場面で交流を深め、生き方をはじめ、多くのことを学ぶ機会を生み出すことを目的としています。

定着しつつあるそれぞれのプロジェクトの充実を計るとともに、生徒自ら考え、自らの力で、自らの学校を大切に美しくしようという取組に重点をおきます。

### 2. 取組の概要

○プロジェクト「ひまわり」「チューリップ」について、プロジェクト「さつまいも」や「ゴーヤ」を本年度新たに始めました。特にこの新しい取組には地域の方々をはじめ、保護者の協力が大きく、収穫したさつまいもやゴーヤを調理し全校生徒で昼食時に食するという取組にまで進展しました。



○生徒自らで学校を美しくしようと、美術部を中心に傷んだ体育倉庫にオリンピックイヤーにちなんでボルトの絵を大きく描き、本校の運動場の一つのシンボルとなりました。また、科学園芸部は中庭にレンガを敷き詰め憩いの場を創り上げました。地域や保護者の方々からよい評価をいただき、協力して校門の門扉などにペンキを塗るということにまで取組は発展しました。

### ○第4回京中オープンスクール



本年度も「学ぼう地域の方々から・考えよう生き方」をテーマに地域の方々を中心にゲストティーチャーを招き、26講座を開講しました。

また、ロンドンパラリンピック走り幅跳び日本代表の佐藤真海さんを招き、さまざまな困難を乗り越えて、新たな挑戦に向かって走り続けるすばらしさを学びました。生きることのすばらしさを感じ取ることができた1日になりました。

○福祉体験ボランティア・校区ボランティア清掃・図書館ボランティア・京中ふれあい美化作業など、いろいろな場面で地域の方々と交流し、さまざまなことを学ぶことができました。

### 3. 成果と課題

○学校が地域の拠点として、徐々に位置づけられ、日常的に地域の方々に来校していただいている状況が生まれてきました。生徒にとって、そのことが当たり前で一つの楽しみであり、地域の方々から学ぶ機会であるという自覚が芽生えてきました。今後、一層日常的な取組を支援していただけるようにしていきたい。そのために、まだまだ固定しているボランティアの裾野を広げ地域の多くの方々にこの事業を理解・協力していただけるように広報活動をすすめるとともに取組の工夫を積み重ねていきます。

事業名

## 「心豊かな六条っ子」

目標

未来を見据え、今を心豊かに生きる子どもを目指す

## 1. 取組の視点

六条小学校では「夢をもち心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を教育目標に取組を進めてきました。地域で決める学校予算事業では心豊かな子どもの育成に向け、「本が大好き六条っ子」・「生き物大好き六条っ子」をテーマとして、事業を推進してきました。

読み聞かせボランティアの支援をうけ、たくさんの本との出会いから、心を豊かにし、生きる力を育んできました。また、図書ボランティア活動では図書環境の充実を図ってきました。

さらに、生き物の専門知識がある地域の講師を招いて、体験活動や講演を行ないました。動物や植物を身近に触れさせることで生き物を大切に思う心や、命を肌で感じ命を大切にする気持ちを育ててきました。

## 2. 取組の概要



「本が大好き六条っ子」に関わって、22名の図書ボランティア・読み聞かせボランティアに登録していただきました。

図書ボランティアは児童が「読みたい本」がいつまでも色あせず、きれいに使えるようにブックカバーをつける作業をしていただきました。時には図書委員会と一緒に作業となりました。450冊の新しい本がいつまでも美しく新鮮な気持ちで読むことができるので、図書室で利用した冊数が5815冊と26%も増えました。また、読み

聞かせボランティアは各教室で朝の読書の時間に読み聞かせをしていただきました。それぞれの



学年にあった本を選んでいただき、雰囲気合った朗読で、子ども達はお話の世界に入り込んで

いきました。大変好評で年間6回もの活動が行なわれました。

「生き物大好き六条っ子」では地域の獣医さんを招いて、小動物の飼育の仕方や病気の見つけ方などを飼育委員会の児童に教えていただきました。また、1年生はウサギや犬の抱き方や接し方を学んだり、聴診器で心音を聞いて命の鼓動を実感したりすることができました。さらに、町の花屋さんパンジーやビオラの苗の植え方と育て方を学びました。そして、全校児童で校内にパンジーを植え、卒業式に向けて育てていくことになりました。他にも地域の方を講師に4年生対象の学校の植物についての講演や学習を行ないました。心を豊かにする、命を大切にする、様々な体験学習ができました。

## 3. 成果と課題

本校では、地域力を生かし六条っ子に豊かな心を培う活動を続けてきたことで、命を大切にす豊かな心を育んできました。また、地域の方々とふれあう機会が多くなり、学びの幅が広がっています。今後、ボランティアの方々がより積極的に子ども達の学びに関わっていただけるよう、自主的に参画できるよう工夫をしていこうと考えます。



事業名

**楽しく仲よくたくましく育つ伏見南の子どもたち**

目標

**《 地域に根付く学校づくりの一層の推進 》**

**1. 取組の視点**

本校では学校五日制推進協議会（愛称「なかよし会」）が中心となって、地域伝統行事開催や子どもたちの登下校安全確保にご協力をいただいています。

今年度は、その組織や協力事項について整理し、新たな活動についても模索することを視点として本事業に取り組むことにしました。

**2. 取組の概要**

本校の保護者の願いは、子どもたちの豊かな人間性形成および学力の向上にあり、地域の方々が本校児童に望んでおられる姿もまた同様です。

この願いに応えるべく教育技術を進取し、子どもたちを学ぶ主体とする授業構築を主眼として教職員は研鑽を積み、かつ、時機を得た教材教具の工夫に努力を重ねてきました。しかしながら、創立 29 年を経て老朽化した教材教具の入れ替えが急務の状況にあり、学習環境の充実も望まれません。そこで、今年度は教材開発やゲストティーチャー招聘および環境美化等、教育環境整備に力を注ぐことにしました。

（実施事業例を【図表 1】に示す。）

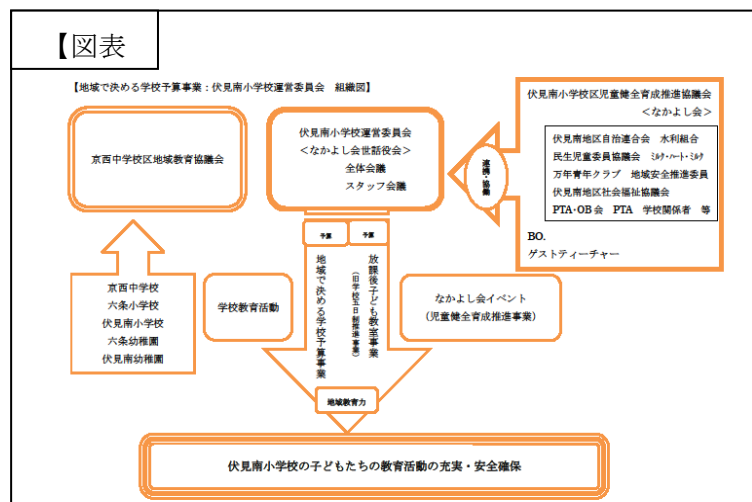
はじめとする地域のみなさまにお礼を申し上げます。  
【図表 1】

実施事業	☆子どもたちの感想 ◇指導者の思い	成果
干柿づくり	☆今年も作れてよかった。 ◇本校ならではの教育活動。創立以来、継続できているのが素晴らしい。	本校伝統の継承
書初め	☆墨をすっている間に、四角い墨の形がどんどん変わっていくのが不思議だしおもしろかった。 ◇大人にとって墨はいい香りがすると思うのだからなあ…。	伝統工芸への気づき
絵手紙	☆初めての体験でうれしかった。 ◇アドバイスをするとどんどん描き進めていった。	教材開発による活動発展
葛まんじゅうづくり	☆食べたことはあるが、葛を見るのは初めてだった。 ◇「郷土食」につながる食育に取り組めた。	食育推進による地域学習への端緒

**3. 取組の成果**

「伏見南小学校運営委員会組織図【図表 2】」を作成することにより、従来からいただいている地域協力事項について整理することができました。

地域の方々のご協力のおかげで全国学力・学習状況調査の「地域の行事に参加している」などの質問に対する回答によると、地域に根付く学校の姿を見ることができました。改めて、「なかよし会」の世話役の方々を



事業名

**夢中になって遊び続ける環境の工夫**

目標

友達と夢中になって、試したり工夫したり、挑戦したりする経験を豊かにする。

## 1. 取組の視点

挑戦したり試したり工夫したりして「知りたい！やってみたい！いいこと考えた！」と自らの学びをつなげていく姿を夢中になって遊ぶ姿と捉えます。そして、主体的に活動し生活を豊かにしていく子どもを育みたいと願って環境の工夫をめざします。

## 2. 取組の概要

## (1) 地域の方と屋外用「子どもの木の家作り」

コーディネーターやボランティアの方々と一緒に自分達の遊びに使う「木の家」を作りました。地域の方と一緒に作ることで、作る楽しさを感じると共に、親しみ大切に使用おうとする気持ちをもって、より一層遊びのイメージを広げ、夢中になって遊ぶ環境になりました。



古い家を解体する時は、今までの感謝の気持ちをもって見守りました。各クラスで作成した設計図には、子ども達の夢が一杯でした。

基礎工事・材木の組み立て・屋根作り・壁塗り等の作業は、子ども達は興味津々で園や家庭ではできない感動体験となりました。



子ども達の作品を家の中に飾ったり、壁面にペンキで絵をかいたりして自分達で作る楽し

さも味わうことができました。新しい家の中では木のぬくもりを感じながら、おうちごっこやままごと遊びに夢中になっています。



## (2) 「六条菜の花プロジェクト」

菜の花を育て菜の花の油を世界遺産の薬師寺や東大寺に届けることを継続しています。地域の方・保護者の方と一緒にすることで、本園の「ひろがる ひろげる 世界遺産学習」の啓発にもなりました。



子ども達は、菜の花の栽培や油絞りを実体験し、使命感をもって菜の花の油を届けました。一年間を通して菜の花とかかわり豊かな感性が育まれています。

## 3. 成果と課題

コーディネーターを中心にボランティア組織が動き出し、多くのことにかかわっていただくことで、子ども達の体験が豊かになりました。試したり、工夫したり、挑戦したりする意欲が育ち、夢中になって遊んでいます。そして、地域の方や保護者の方に幼稚園の取組を理解していただき、定着してきています。また、掲示板への張り出しや「六条ニュース」の回覧は情報発信につながりました。更に地域支援ボランティア組織と協働し、得意分野で子ども達とかかわっていただけるようにしていきたいです。

事業名

**いきいき輝け！笑顔いっぱい**

目標

**地域の方など、いろいろな人やものとのかかわりを通して、心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる**

## 1. 取組の視点

近年の核家族化、少子化による生活様式の変化や社会的モラルの低下などから、幼児は入園するまで家庭内で過ごすことが多く、園児・保護者とも人とのかかわり方がぎこちなかったり、苦手だったりします。そこで、地域の方や近隣校園との交流の中で、温かな心に触れ、思いやりの気持ちや人とつながる喜びを味わうことで、感動体験を積み重ね、心豊かでいきいきと活動できるよう計画を立て実施してきました。

また、園児や地域の方などが“幼稚園って楽しいな”“行くのが楽しみ”と思えるような人的・物的環境を大切に取り組んできました。

## 2. 取組の概要

年間を通して、様々な年代の人（未就園児・保育園児・小中学生・民生委員・地域の方など）と計画的に触れ合ったり、交流したりできるようにしました。

地域の方を招いての、お話ひろばは、季節や行事の絵本や紙芝居を読んでくださっています。また、昔遊びひろばは、手遊びやお手玉をして一緒に触れ合って遊んでいます。どちらも継続して行っています。回を重ねることで顔見知りになって、来園されると幼児から気軽に声をかけるようになったり、教えていただいた遊びを再現したり体験したりしたことが幼児の心に残り、次回を楽しみに待つ声が聞かれるようになっていきます。



民生さんとは、子どもまつりやもちつき、お正月遊びと年3回の交流を実施しています。

気さくに声をかけてくださる民生さんに「この前来てくれた、おじさんや」と前回の経験が心に残り自分からも声をかける姿や、一緒に遊ぶ中で傍へ寄りかかわる様子も見られました。

地域の方の優しさを心地よく感じながら、心を開いて嬉しそうに遊ぶ子供たちの表情が伺えました。



保育園とは、年3回交流をしています。回を重ねることで進級後や就学後にまた会えることを楽しみにする声も聞かれるようになっていきます。

小学校との連携として「わくわく伏見会」や一日入学などいろいろな学年の小学生とかかわることで思いやりの気持ちにふれ、就学への期待が高まったようです。中学生との交流のふれあい音楽会や職場体験では、少し年の離れたお姉さんたちに演奏を聞かせてもらったり一緒に遊んだりすることで身近に感じ、親しみを持ったようです。

## 3. 成果と課題

様々な人との触れ合いを通して、いろいろな経験を積み重ねてきたことで、人とかかわる楽しさや喜びを味わい、人の温かさや優しさを感じ、感謝の気持ちを持って意欲的に活動する姿が見られるようになってきました。

今後も子どもたちが心豊かに成長するように来園者や近隣校と園計画や評価を話し合い、人的・物的環境を整えていきたいです。